



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年2月3日

上場会社名 株式会社中京医薬品 上場取引所 東
 コード番号 4558 URL http://www.chukyoiyakuhin.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 米津 秀二
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長 (氏名) 飯田 亨 TEL 0569-29-0202
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	4,479	7.0	195	31.6	209	28.2	114	16.4
2022年3月期第3四半期	4,187	△11.2	148	△60.9	163	△58.2	98	△57.4

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	10.79	—
2022年3月期第3四半期	9.41	9.40

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	5,517	2,684	48.6	252.38
2022年3月期	5,339	2,618	49.0	246.38

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 2,684百万円 2022年3月期 2,618百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
2023年3月期	—	2.50	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2023年3月期の業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,553	3.6	100	56.2	117	39.2	43	30.3	4.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	11,660,734株	2022年3月期	11,660,734株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,025,002株	2022年3月期	1,032,687株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	10,632,495株	2022年3月期3Q	10,469,924株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(セグメント情報等)	6
(収益認識関係)	7
3. その他	7
継続企業の前提に関する重要事象等	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策が進み、景気は穏やかな回復基調が続いているものの、ロシア・ウクライナ情勢の長期化による資源価格の高騰に加え、円安の進行による物価上昇等が国内経済に与える影響が懸念され、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような環境の中で、当社は企業理念として掲げる「健康づくり、幸福づくり、人づくり」の具現化に向けて、お客さまの生活を支えるための商品や情報・サービスを多角的・多面的に拡充するトータルライフ・ケアを推進してまいりました。また、当社ならではの「ふれあい業」は、人と人との絆によるヒューマンネットワークを広げています。それによりお客さまや市場において継続的評価をいただくことに努め、収益力と企業体質の強化を図ってまいりました。

その結果、当第3四半期累計期間における売上高は4,479百万円(前年同期比7.0%増)、営業利益は195百万円(前年同期比31.6%増)、経常利益は209百万円(前年同期比28.2%増)、四半期純利益は法人税等調整額(損)22百万円を計上したため114百万円(前年同期比16.4%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであり、セグメント間の取引については相殺消去しております。

①家庭医薬品等販売事業(小売部門・卸売部門)

小売部門においては、事業基盤の強化として配置薬などの委託販売を推進することにより安定した収益基盤の確立に取り組みました。また成長戦略として、顧客営業権(のれん)を購入し、6月より静岡県に藤枝営業所、沼津営業所、伊東営業所、浜松西営業所を新規出店し売上高の増加に貢献しました。更に新商品「ソフティナー湯たんぼ気分ほんわか靴下」の発売や遠赤寝具、健康関連商品の販売などを積極的に行いました。

卸売部門においては、継続して感染予防の意識が高まっており、高機能マスクやバイカラーマスクなどの販売を行いました。また飲料や食品における他企業のOEM(プライベートブランド)の販売も積極的に行いました。今後についても市場動向を見ながら新しい商品の開発や販売を進め、社会環境の変化に即応するよう努めてまいります。

その結果、売上高は3,956百万円(前年同期比7.3%増)、セグメント利益は175百万円(前年同期比28.1%増)となりました。

②売水事業部門

昨今の健康志向ブームによる飲料水へのこだわりと、拡大するミネラルウォーター宅配市場の成長性、更に防災対策としての水の備蓄や熱中症対策としての水の必要性等により、中核事業の1つとして確立することを目標としております。下期より製造等コストの増加に伴う販売価格の見直しや抗菌カートリッジやサーバーメンテナンスにより安全性の強化を図りました。除菌用アルコール製品等の製造・販売についても、継続的に注力してまいりました。

その結果、売上高は546百万円(前年同期比0.1%増)、セグメント利益は20百万円(前年同期比73.7%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は3,229百万円となり、前事業年度末に比べ72百万円増加いたしました。これは主に受取手形、売掛金及び契約資産の増加177百万円、現金及び預金の減少102百万円によるものであります。固定資産は2,287百万円となり、前事業年度末に比べ105百万円増加いたしました。これは主に無形固定資産の増加139百万円によるものであります。

この結果、総資産は5,517百万円となり、前事業年度末に比べ178百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は2,202百万円となり、前事業年度末に比べ183百万円増加いたしました。これは主に電子記録債務の増加117百万円、短期借入金の増加70百万円によるものであります。固定負債は630百万円となり、前事業年度末に比べ71百万円減少いたしました。これは主に長期借入金の減少63百万円によるものであります。

この結果、負債合計は、2,833百万円となり、前事業年度末に比べ112百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は2,684百万円となり、前事業年度末に比べ65百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金の増加60百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は48.6%(前事業年度末は49.0%)、1株当たり純資産額は252.38円(前事業年度は246.38円)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月13日付けにて発表しました業績予想からの変更はありません。詳細につきましては「2022年3月期決算短信」をご覧ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,443,246	1,340,616
受取手形、売掛金及び契約資産	472,098	649,448
電子記録債権	32,437	34,494
商品及び製品	572,463	554,032
委託商品	473,927	488,408
仕掛品	83	84
原材料及び貯蔵品	43,744	44,996
その他	125,049	126,056
貸倒引当金	△5,853	△8,352
流動資産合計	3,157,197	3,229,785
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	467,937	455,813
土地	1,198,806	1,198,806
その他(純額)	29,020	23,292
有形固定資産合計	1,695,764	1,677,913
無形固定資産		
投資その他の資産	81,246	220,394
前払年金費用	103,622	104,524
その他	306,063	289,666
貸倒引当金	△4,609	△4,602
投資その他の資産合計	405,076	389,589
固定資産合計	2,182,088	2,287,896
資産合計	5,339,285	5,517,682
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	256,851	254,113
電子記録債務	123,324	240,829
短期借入金	910,000	980,000
1年内返済予定の長期借入金	183,346	200,016
未払法人税等	60,302	44,072
賞与引当金	132,920	73,498
その他	352,255	410,261
流動負債合計	2,019,000	2,202,791
固定負債		
長期借入金	301,729	237,817
退職給付引当金	151,714	151,910
株式給付引当金	32,269	35,508
資産除去債務	2,488	2,531
長期未払金	178,120	178,120
その他	35,376	24,755
固定負債合計	701,698	630,643
負債合計	2,720,698	2,833,434

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	681,012	681,012
資本剰余金	529,060	528,845
利益剰余金	1,708,015	1,768,463
自己株式	△305,923	△303,643
株主資本合計	2,612,164	2,674,676
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,422	9,571
評価・換算差額等合計	6,422	9,571
純資産合計	2,618,587	2,684,248
負債純資産合計	5,339,285	5,517,682

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	4,187,285	4,479,820
売上原価	1,330,567	1,543,220
売上総利益	2,856,717	2,936,599
販売費及び一般管理費	2,708,217	2,741,149
営業利益	148,499	195,450
営業外収益		
受取利息	20	16
受取配当金	973	1,169
受取家賃	11,695	12,706
その他	6,716	4,024
営業外収益合計	19,405	17,917
営業外費用		
支払利息	3,488	3,396
譲渡制限付株式関連費用	600	—
その他	0	0
営業外費用合計	4,089	3,397
経常利益	163,815	209,969
特別利益		
保険解約返戻金	11,516	—
特別利益合計	11,516	—
特別損失		
固定資産除売却損	—	2,113
特別損失合計	—	2,113
税引前四半期純利益	175,332	207,855
法人税、住民税及び事業税	58,177	70,414
法人税等調整額	18,661	22,746
法人税等合計	76,839	93,160
四半期純利益	98,493	114,694

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上 額 (注) 3
	家庭医薬品等販売事業		売水 事業部門	計				
	小売部門	卸売部門						
売上高								
小売販売及び 卸売販売	2,413,092	567,213	498,399	3,478,705	2,075	3,480,781	—	3,480,781
配置販売	706,504	—	—	706,504	—	706,504	—	706,504
顧客との契約 から生じる収益	3,119,596	567,213	498,399	4,185,209	2,075	4,187,285	—	4,187,285
外部顧客への売上高	3,119,596	567,213	498,399	4,185,209	2,075	4,187,285	—	4,187,285
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	47,515	47,515	—	47,515	△47,515	—
計	3,119,596	567,213	545,914	4,232,725	2,075	4,234,800	△47,515	4,187,285
セグメント利益	135,827	1,151	11,521	148,499	—	148,499	—	148,499

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含んでいない事業セグメントであり、保険事業部門等を含んでおります。

2. 調整額はセグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期累計期間（自2022年4月1日 至2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上 額 (注) 3
	家庭医薬品等販売事業		売水 事業部門	計				
	小売部門	卸売部門						
売上高								
小売販売及び 卸売販売	2,430,051	694,817	521,157	3,646,025	1,779	3,647,805	—	3,647,805
配置販売	832,015	—	—	832,015	—	832,015	—	832,015
顧客との契約 から生じる収益	3,262,066	694,817	521,157	4,478,040	1,779	4,479,820	—	4,479,820
外部顧客への売上高	3,262,066	694,817	521,157	4,478,040	1,779	4,479,820	—	4,479,820
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	25,260	25,260	—	25,260	△25,260	—
計	3,262,066	694,817	546,418	4,503,301	1,779	4,505,081	△25,260	4,479,820
セグメント利益	168,539	6,901	20,009	195,450	—	195,450	—	195,450

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含んでいない事業セグメントであり、保険事業部門等を含んでおります。

2. 調整額はセグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

家庭医薬品等販売事業の小売部門において、企業価値向上のため顧客の増加と営業エリア拡大による営業権（のれん）を譲受しました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期累計期間において171百万円であります。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。